

ひまわり 金子みすゞ

おてんとママの車の輪^わ
黄金のきれいな車の輪。青い空をゆくときは、話
黄金のひびきをたてました。白い雲をゆくときは、
見たは小さな黒い星。

天でも地でもだれ知らぬ。

黒い星をひくまごと、

急に曲がった車の輪

おてんとママはほり出され、

真っ赤になつておぼろ立ち、

黄金のきれいな車の輪、

はるか下界へすてられた、

むかし、むかしに捨てられた。

いまも、黄金^{こがね}の車の輪

お日を慕つてまわります。

みすゞさんは、「ひまわり」をお日さまの車の輪…とっています。

車の輪は、黒い星を轆かないようにと、急に曲がったのでお日さまが落ちてほおり出されてしまったので

しょう。お日さまは怒って、車の輪は下の世界に投げられてしまいました。

この「ひまわり」という詩にはストーリーがありますね。

だから、ひまわりはいつも天の方…お日さまの方を向いているのでしょうか…。

そして、明るい方へ 明るい方へ…「向日葵」と言うのでしょうか…。

「ひまわり」の花は、とても明るい花…というイメージがあると思います。

ひまわり畑に行くととても気持ちが明るくなります。

先日、クラシックTVという番組でヘンリー・マンシーニという作曲家の特集をしていました。

マンシーニはたくさんの映画音楽を手掛けています。

映画「ひまわり」は第二次世界大戦後のイタリアの映画で、戦争によって引き裂かれたイタリア人の夫婦の悲劇が描かれています。広大なひまわり畑のシーンで、マンシーニ作曲の♪ひまわりが流れます。

ひまわりは明るいイメージでしたが、このシーン、曲を聴くと悲しいシーンが思い起されます。

背景によって感じ方もさまざまです。

ロケ地となったのはウクライナだそうです。

「ひまわり」はウクライナの国花です。

戦後80年の今年は特に平和について考えることが多かった夏でした。

今なお、続くロシアとウクライナの戦争、世界に起こっているさまざまな紛争が明るい方へ

明るい平和に向かうことを心から祈ります。



♪ ひまわり
親交のあるヴァイオリニスト中西俊博さん、ピアノ林正樹さんの演奏です。